

公益財団法人 がんの子どもを守る会  
**2017年度事業報告書**

2017年4月1日～2018年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT  
Apr.01,2017～ Mar.31,2018



公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

電話:03-5825-6311 (代表)

03-5825-6312 (相談)

<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検索









CCAJ

公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

## CONTENTS

 理事長あいさつ	1
 組織概要	2
 会の歴史	4
 2017年度収支報告	6
 2017年度の事業概況	
①療養援助事業	10
②相談事業	11
③治療研究事業	15
④総合支援施設運営事業	17
⑤小児がん・難病対策	18
⑥支部活動	19
⑦広報・啓発・募金活動 等	20
⑧国際活動	25
⑨奨学金事業	25
⑩ボランティアコーディネート・研修会	26
⑪調査研究協力	26
⑫2017年度年次大会開催	27
⑬企業・団体からのご協力	28
 寄付・募金者一覧	29

### がんの子どもを守る会とは

1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としています。小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、未だ病死順位の1位であること、たとえ治療を終えても小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。当会は患児・家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。

### 理事長あいさつ

公益財団法人がんの子どもを守る会  
理事長 山下 公輔



2017年度事業報告書の発行に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

公益財団法人がんの子どもを守る会は、“小児がんを治る病気にしたい”、“小児がんで苦しむ家族のいない世の中にしたい”という、小児がんで子を亡くした親たちの願いの下、1968年（昭和43年）に設立されました。爾来、小児がんの患児・家族への様々な支援を中心に、設立時の願いの実現のために幅広く事業を展開して参りましたが、お陰さまで、2017年度の事業活動を無事終えることができ、いよいよ新年度は設立50年の記念すべき年となりました。

2012年の公益財団法人への移行を機に、会の持続的発展を確実なものにすべく、運営方針・体制の改編・強化の努力を続けて参りましたが、お陰さまで新たな事業を含めた事業展開を犠牲にすることなく、継続的な運営の正常化ができる体制になって参りました。このような安定的な状況の下で、設立50年の節目を迎えることができましたのも、事務局職員や各支部で会の活動を支え下さる皆様の努力、そしてなにより外部の多くの方々のご支援の賜物と心より感謝しております。

既にお伝えしてきておりますが、設立50年の記念の年である2018年度を中心に2017年度及び2019年度を、記念の3ヶ年として、幾つかの新しい取り組みを進めて参りました。2017年度はその一つとして、本部事務所のあるペアレンツハウス浅草橋とペアレンツハウス亀戸の運営を、当会の直営とするとともに両施設の大規模な改修を行い、小児がんや難病の子どもや家族のための「総合」的な支援施設として、より充実した運営を目指しました。2017年度末には、両施設の改修が全て終わり、ペアレンツハウス浅草橋は、宿泊室部分を拡充し、利用者の皆さんにより良い環境で宿泊していただくとともに、当会本部事務所と一体化した運営により総合支援機能を強化しております。また、ペアレンツハウス亀戸については、宿泊室部分の一部拡張とともに、会議室の拡充やラウンジの設置などを行い、小児がん経験者支援プログラム等の展開や、小児がんや難病関連の団体等の方々を含む、より幅広い利用者の方々に活用していただける施設として、新年度の4月

1日から新たな運営を開始しております。

2017年度は、このような新しい展開はもとより、長年に亘る当会の主要な事業である、「小児がん家族に対する相談事業」、「小児がん家族への療養費援助事業」、「小児がんに関する治療研究助成事業」、「小児がんに関する社会の理解の向上を目指した啓発活動」そして「難病の子どもを持つ家族のための総合支援施設運営事業」を着実に推進してまいりました。

更に、年度末の3月に国の第三期がん対策推進基本計画が閣議決定され、新年度以降小児がん医療体制の更なる改善・強化が期待されていますが、2017年度はこれら国の施策の動向にも目を配り、全国に支部を持つ当会の組織力を活かした地方自治体への働きかけなども含めた対応も積極的に進めて参りました。

これらに加え、近年継続的に力を注いでおります「小児がん経験者」の支援、長期フォローアップに関する諸課題、教育、就労の問題等々への対応や、小児がんの医療や臨床研究の中核である日本小児血液・がん学会や日本小児がん研究グループ（JCCG）等医療界の方々との連携も積極的に進めて参りました。

これらの事業活動に加え、2017年度は当会設立50年を記念する諸行事の準備、更に2018年11月に京都で開催される予定のSIOP（国際小児がん学会）の世界大会と小児がんの親・支援者の国際団体、CCI（国際小児がんの会）の世界大会に向けたホスト国団体としての準備活動も、2017年度の活動の特筆すべき内容の一つでありました。

これら2017年度の活動詳細につきましては、本事業報告書をお読みいただきたいと思います。併せてホームページで公表しております2018年度の事業計画もご覧いただければ、近年の環境変化を意識しながら、視点を設立50年の節目を越えた先へ向けた、当会の事業展開の考え方的一端をご理解いただけるものと考えております。

2017年度を無事終え、50年の節目を迎えた今、小児がん患児・家族に対する幅広い支援事業を持続的に推進するという当会の使命の実現に向け、改めて不肖私を含め理事及び事務局職員一同努力を続けて参る所存であります。皆様におかれましては、当会の活動について一層のご理解を頂き、継続的なご支援を賜りますよう誠心からお願い申し上げます。

2018年6月1日





# 会の歴史

1962 設立趣意書作成

1966 NHKカメラリポートで紹介

1967 「がんの子供を助ける親の会」準備会

1968 2.25 「親の会」設立総会  
10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可  
11.18 治療研究委員会発足  
12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金

1969 小児がん全国登録開始

1970 関西支部設立総会  
小児がん公費負担について厚生大臣に陳情

1971 陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現

1972 九州支部設立総会  
北海道支部設立総会  
療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足

1973 映画企画委員会発足  
専任ケースワーカー設置

1974 48年度小児がん映画完成公開  
静岡支部設立総会  
全国登録委員会発足

1975 愛知支部設立総会  
49年度小児がん映画完成公開  
埼玉支部設立総会  
パンフレット「こどものがん」刊行

1976 特定公益増進法人の認定

1978 本会に嘱託医を設置  
創立10周年記念講演と映画の会

1979 長野支部設立総会  
創立10周年記念・国際児童年記念小児がん国際シンポジウム

1981 新潟支部設立総会

1984 日本小児がん研究会発足

1985 第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）

1986 竹中相談役・顧問に藍綬褒章

1989 創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム

1991 小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行  
宮城支部設立総会

1993 愛媛支部設立総会  
小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成

1994 小冊子「こどものがん」、疾病別リーフレット刊行

1995 宿泊施設「あかつきハウス」開設  
岡山支部設立総会

1996 東京支部HOPE設立総会  
学習ボランティア研修会開始（モデル事業）

1997 国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入

1998 創立30周年記念第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議

1999 九州支部、北・西・南の3支部に分割  
清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）

2000 「小児がん患児とその家族の支援に関するガイドライン」刊行  
岩田理事長に藍綬褒章

2001 「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転

2002 「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行  
愛知支部が東海支部となる  
広島支部設立総会

2003 九州南支部が熊本支部となる  
鹿児島支部設立総会  
埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる

2004 福井支部設立総会  
香川支部設立総会  
沖縄支部設立総会  
「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転

2006 小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立  
「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行

2007 ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京）  
富山支部設立総会

2008 創立40周年記念事業がんの子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉）  
第1回小児がん経験者自立支援助成金

2009 「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成／大阪事務所開設  
高知支部設立総会

2010 「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行  
福島支部設立総会

2011 東日本大震災緊急療養援助実施

2012 公益財団法人移行認定  
鹿児島支部が鹿児島・宮崎支部となる

2013 「小児がん経験者及びがん遺児に対する奨学金給付事業」の認定  
岩田最高相談役及び西村顧問に当会より特別功労賞を授与

2014 奨学金事業「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度」を開始  
厚生労働省に「難病及び小児慢性特定疾病対策・小児がん対策の充足を求める請願書」を提出  
文部科学省に「小児がん患児が切れ目なく教育を受けることができる教育整備の充足を求める請願書」を提出  
「小児がん経験者のためのハンドブック」刊行  
「小児がんの子どものきょうだいのきもち」刊行  
鹿児島・宮崎支部が宮崎支部となる

2015 第29回日本医学会総会2015関西 疾患啓発イベント「分かちあう気持ち、支えあう笑顔 小児がん医療の姿～いま そして これから～」開催  
アフラックペアレンツハウス浅草橋10周年記念イベント開催  
「小児がん こどもでんわ相談室」開設

2016 当会、一般社団法人日本小児血液・がん学会及び特定非営利活動法人日本小児がん看護学会の連名で厚生労働省に対し「小児がん対策に関する要望書」を提出  
「小児がんの子どものきょうだいたち」刊行

2017 アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 業務委託から直営による運営を開始  
アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 施設の拡充を目的とする改修・改装工事の実施  
アフラックペアレンツハウス浅草橋 リニューアルオープン



# 2017年度収支報告 (2017年4月1日～2018年3月31日)



## 正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	公益目的事業	法人会計	内部取引	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
<b>1. 経常増減の部</b>				
<b>(1) 経常収益</b>				
財産運用益	5,463,717			5,463,717
普通預金利息	4,247			4,247
定期預金利息	66,043			66,043
投資有価証券利息	5,393,427			5,393,427
受取寄付金	267,756,116	44,461,480		312,217,596
特定寄付金	5,701,020			5,701,020
一般寄付金	88,922,960	44,461,480		133,384,440
受取寄付金振替額	173,132,136			173,132,136
受取協賛金	2,500,000			2,500,000
ゴールドリボン協賛金収入	2,500,000			2,500,000
受取補助金等	31,064,136			31,064,136
受取補助金等振替額	31,064,136			31,064,136
受託料	990,000			990,000
調査研究受託料	990,000			990,000
受取利用料	4,677,200			4,677,200
施設利用料	4,159,500			4,159,500
リネン利用料	517,700			517,700
雑収益	2,938,493			2,938,493
雑収益	2,938,493			2,938,493
経常収益計	270,928,182	44,461,480	0	315,389,662
<b>(2) 経常費用</b>				
事業費	386,419,831			386,419,831
人件費	87,914,487			87,914,487
法定福利費	10,464,978			10,464,978
給与	74,158,617			74,158,617
福利厚生費	46,752			46,752
退職給付費用	3,244,140			3,244,140
助成費	27,753,550			27,753,550
療養助成費	17,803,550			17,803,550
治療研究助成費	6,950,000			6,950,000
調査研究助成費	3,000,000			3,000,000
活動費	146,026,419			146,026,419
会議費	1,272,528			1,272,528
旅費交通費	13,245,581			13,245,581
通信運搬費	6,513,103			6,513,103
消耗品費	1,702,280			1,702,280
修繕費	56,855,095			56,855,095
印刷製本費	2,030,219			2,030,219
光熱水料費	10,282,521			10,282,521
保険料	1,186,033			1,186,033
諸謝金	1,343,816			1,343,816
業務委託費	732,108			732,108
広報費	3,263,543			3,263,543
支援費	1,589,599			1,589,599
図書資料費	258,154			258,154
保健衛生費	1,042,844			1,042,844
ゴールドリボン制作費	2,533,022			2,533,022
宿泊施設運営費	648,932			648,932
租税公課	9,126,200			9,126,200
リネン賃借料	249,792			249,792
事業協力費	1,835,487			1,835,487
会場費	2,719,089			2,719,089
雑費	3,957,607			3,957,607
保守料	13,350,276			13,350,276
リース料	1,993,717			1,993,717
植栽管理費	764,350			764,350
借地料	845,832			845,832
衛生管理費	2,607,590			2,607,590
消耗什器備品費	4,077,101			4,077,101
減価償却費	29,300,375			29,300,375
建物減価償却額	26,757,743			26,757,743
建物附属設備減価償却額	1,672,546			1,672,546
ソフトウェア減価償却額	79,200			79,200

科目	公益目的事業	法人会計	内部取引	合計
什器備品減価償却額	790,886			790,886
奨学金給付費	95,425,000			95,425,000
奨学金給付費	95,425,000			95,425,000
管理費		29,840,442		29,840,442
人件費		19,407,292		19,407,292
給与		14,745,747		14,745,747
法定福利費		2,498,785		2,498,785
退職給付費用		2,162,760		2,162,760
活動費		10,076,447		10,076,447
会議費		49,944		49,944
旅費交通費		1,425,409		1,425,409
通信運搬費		687,188		687,188
消耗品費		79,941		79,941
修繕費		536,246		536,246
印刷製本費		1,043,284		1,043,284
図書資料費		48,444		48,444
保守料		599,064		599,064
リース料		2,340,619		2,340,619
支払報酬		2,052,000		2,052,000
租税公課		75,300		75,300
消耗什器備品費		8,100		8,100
雑費		1,130,908		1,130,908
減価償却費		356,703		356,703
ソフトウェア減価償却額		233,916		233,916
什器備品減価償却額		122,787		122,787
経常費用計	386,419,831	29,840,442	0	416,260,273
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 115,491,649	14,621,038	0	△ 100,870,611
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 115,491,649	14,621,038	0	△ 100,870,611
<b>2. 経常外増減の部</b>				
<b>(1) 経常外収益</b>				
経常外収益計	0	0	0	0
<b>(2) 経常外費用</b>				
固定資産除却損	879,350	0	0	879,350
経常外費用計	879,350	0	0	879,350
当期経常外増減額	△ 879,350	0	0	△ 879,350
当期一般正味財産増減額	△ 116,370,999	14,621,038	0	△ 101,749,961
一般正味財産期首残高	643,134,096	51,013,395	0	694,147,491
一般正味財産期末残高	526,763,097	65,634,433	0	592,397,530
<b>II 指定正味財産増減の部</b>				
受取補助金等	978,136			978,136
受取助成金	978,136			978,136
助成金	978,136			978,136
受取寄付金	232,951,974			232,951,974
指定寄付金	232,951,974			232,951,974
三重ファミリールーム指定寄付金	1,210,000			1,210,000
施設運営指定寄付金	108,813,089			108,813,089
がん遺児奨学金指定寄付金	79,272,637			79,272,637
固定資産取得	43,656,247			43,656,247
特定資産評価損	6,977,402			6,977,402
一般正味財産への振替額	△ 247,923,514			△ 247,923,514
指定寄付金	△ 216,859,378			△ 216,859,378
受取助成金等	△ 978,136			△ 978,136
受取補助金	△ 30,086,000			△ 30,086,000
当期指定正味財産増減額	△ 20,899,812			△ 20,899,812
指定正味財産期首残高	2,105,357,990			2,105,357,990
指定正味財産期末残高	2,084,458,178			2,084,458,178
<b>III 正味財産期末残高</b>	2,611,221,275	65,634,433	0	2,676,855,708



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	一般会計	ヘアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	メイスン財団 小児がん骨髄移植基金 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特別会計	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>						
<b>1. 経常増減の部</b>						
(1) 経常収益						
財産運用益	5,461,313	470	213	39	1,682	5,463,717
普通預金利息	1,843	470	213	39	1,682	4,247
定期預金利息	66,043	0	0	0	0	66,043
投資有価証券利息	5,393,427	0	0	0	0	5,393,427
受取寄付金	94,623,980	92,649,499	1,210,000	0	79,272,637	267,756,116
特定寄付金	5,701,020	0	0	0	0	5,701,020
一般寄付金	88,922,960	0	0	0	0	88,922,960
受取寄付金振替額	0	92,649,499	1,210,000	0	79,272,637	173,132,136
受取協賛金	2,500,000	0	0	0	0	2,500,000
ワールドリボン協賛金収入	2,500,000	0	0	0	0	2,500,000
受取補助金等	978,136	30,086,000	0	0	0	31,064,136
受取補助金等振替額	978,136	30,086,000	0	0	0	31,064,136
受託料	990,000	0	0	0	0	990,000
調査研究受託料	990,000	0	0	0	0	990,000
受取利用料	186,000	4,244,200	247,000	0	0	4,677,200
施設利用料	186,000	3,726,500	247,000	0	0	4,159,500
リネン利用料	0	517,700	0	0	0	517,700
雑収益	2,938,343	150	0	0	0	2,938,493
雑収益	2,938,343	150	0	0	0	2,938,493
経常収益計	107,677,772	126,980,319	1,457,213	39	79,274,319	315,389,662
(2) 経常費用						
事業費	90,987,508	183,466,345	4,366,048	6,096,000	101,503,930	386,419,831
人件費	29,980,650	53,833,837	0	0	4,100,000	87,914,487
法定福利費	3,506,151	6,423,827	0	0	535,000	10,464,978
給与	23,230,359	47,363,258	0	0	3,565,000	74,158,617
福利厚生費	0	46,752	0	0	0	46,752
退職給付費用	3,244,140	0	0	0	0	3,244,140
助成費	21,657,550	0	0	6,096,000	0	27,753,550
療養助成費	11,707,550	0	0	6,096,000	0	17,803,550
治療研究助成費	6,950,000	0	0	0	0	6,950,000
調査研究助成費	3,000,000	0	0	0	0	3,000,000
活動費	39,249,061	102,219,328	2,579,100	0	1,978,930	146,026,419
会議費	1,218,527	15,203	0	0	38,798	1,272,528
旅費交通費	12,533,265	582,136	48,200	0	81,980	13,245,581
通信運搬費	3,699,377	2,392,595	48,677	0	372,454	6,513,103
消耗品費	814,015	847,072	20,619	0	20,574	1,702,280
修繕費	2,067,056	54,628,199	159,840	0	0	56,855,095
印刷製本費	972,104	421,995	0	0	636,120	2,030,219
光熱水料費	0	9,746,059	536,462	0	0	10,282,521
保険料	134,743	1,045,170	6,120	0	0	1,186,033
諸謝金	1,343,816	0	0	0	0	1,343,816
業務委託費	0	609,120	122,988	0	0	732,108
広報費	3,263,543	0	0	0	0	3,263,543
支援費	1,089,599	0	500,000	0	0	1,589,599
図書資料費	52,280	195,074	0	0	10,800	258,154
保健衛生費	0	842,844	200,000	0	0	1,042,844
ワールドリボン制作費	2,533,022	0	0	0	0	2,533,022
宿泊施設運営費	648,932	0	0	0	0	648,932
租税公課	4,800	9,121,400	0	0	0	9,126,200
リネン賃借料	0	249,792	0	0	0	249,792
事業協力費	1,835,487	0	0	0	0	1,835,487
会場費	2,719,089	0	0	0	0	2,719,089
雑費	1,571,607	1,541,174	26,622	0	818,204	3,957,607
保守料	0	13,332,436	17,840	0	0	13,350,276
リース料	0	1,993,717	0	0	0	1,993,717
植栽管理費	0	764,350	0	0	0	764,350
借地料	0	0	845,832	0	0	845,832
衛生管理費	0	2,561,690	45,900	0	0	2,607,590
消耗什器備品費	2,747,799	1,329,302	0	0	0	4,077,101
減価償却費	100,247	27,413,180	1,786,948	0	0	29,300,375
建物減価償却額	100,247	24,940,762	1,716,734	0	0	26,757,743
建物附属設備減価償却額	0	1,672,546	0	0	0	1,672,546

科目	一般会計	ヘアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	メイスン財団 小児がん骨髄移植基金 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特別会計	合計
ソフトウェア減価償却額	0	79,200	0	0	0	79,200
什器備品減価償却額	0	720,672	70,214	0	0	790,886
奨学金給付費	0	0	0	0	95,425,000	95,425,000
奨学金給付費	0	0	0	0	95,425,000	95,425,000
管理費	29,840,442	0	0	0	0	29,840,442
人件費	19,407,292	0	0	0	0	19,407,292
給与	14,745,747	0	0	0	0	14,745,747
法定福利費	2,498,785	0	0	0	0	2,498,785
退職給付費用	2,162,760	0	0	0	0	2,162,760
活動費	10,076,447	0	0	0	0	10,076,447
会議費	49,944	0	0	0	0	49,944
旅費交通費	1,425,409	0	0	0	0	1,425,409
通信運搬費	687,188	0	0	0	0	687,188
消耗品費	79,941	0	0	0	0	79,941
修繕費	536,246	0	0	0	0	536,246
印刷製本費	1,043,284	0	0	0	0	1,043,284
図書資料費	48,444	0	0	0	0	48,444
保守料	599,064	0	0	0	0	599,064
リース料	2,340,619	0	0	0	0	2,340,619
支払報酬	2,052,000	0	0	0	0	2,052,000
租税公課	75,300	0	0	0	0	75,300
消耗什器備品費	8,100	0	0	0	0	8,100
雑費	1,130,908	0	0	0	0	1,130,908
減価償却費	356,703	0	0	0	0	356,703
ソフトウェア減価償却額	233,916	0	0	0	0	233,916
什器備品減価償却額	122,787	0	0	0	0	122,787
経常費用計	120,827,950	183,466,345	4,366,048	6,096,000	101,503,930	416,260,273
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 13,150,178	△ 56,486,026	△ 2,908,835	△ 6,095,961	△ 22,229,611	△ 100,870,611
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 13,150,178	△ 56,486,026	△ 2,908,835	△ 6,095,961	△ 22,229,611	△ 100,870,611
<b>2. 経常外増減の部</b>						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
固定資産除却損	0	879,350	0	0	0	879,350
経常外費用計	0	879,350	0	0	0	879,350
当期経常外増減額	0	△ 879,350	0	0	0	△ 879,350
当期一般正味財産増減額	△ 13,150,178	△ 57,365,376	△ 2,908,835	△ 6,095,961	△ 22,229,611	△ 101,749,961
一般正味財産期首残高	536,505,438	134,521,652	22,431,798	6,095,961	△ 5,407,358	694,147,491
一般正味財産期末残高	523,355,260	77,156,276	19,522,963	0	△ 27,636,969	592,397,530
<b>II 指定正味財産増減の部</b>						
受取補助金等	978,136	0	0	0	0	978,136
受取助成金	978,136	0	0	0	0	978,136
助成金	978,136	0	0	0	0	978,136
受取寄付金	0	152,469,337	1,210,000	0	79,272,637	232,951,974
指定寄付金	0	152,469,337	1,210,000	0	79,272,637	232,951,974
三重ファミリールーム指定寄付金	0	0	1,210,000	0	0	1,210,000
施設運営指定寄付金	0	108,813,089	0	0	0	108,813,089
がん遺児奨学金指定寄付金	0	0	0	0	79,272,637	79,272,637
固定資産取得	0	43,656,248	0	0	0	43,656,248
特定資産評価損	6,977,402	0	0	0	0	6,977,402
一般正味財産への振替額	△ 978,136	△ 166,391,747	△ 1,210,000	0	△ 79,272,637	△ 247,852,520
指定寄付金	0	△ 136,305,747	△ 1,210,000	0	△ 79,272,637	△ 216,788,384
受取助成金等	△ 978,136	0	0	0	0	△ 978,136
受取補助金	0	△ 30,086,000	0	0	0	△ 30,086,000
当期指定正味財産増減額	△ 6,977,402	△ 13,922,410	0	0	0	△ 20,899,812
指定正味財産期首残高	112,775,930	1,761,943,963	18,548,842	0	212,089,255	2,105,357,990
指定正味財産期末残高	105,798,528	1,748,021,553	18,548,842	0	212,089,255	2,084,458,178
<b>III 正味財産期末残高</b>	629,153,788	1,825,177,829	38,071,805	0	184,452,286	2,676,855,708



## 1 療養援助事業

療養援助事業は、患児が等しく医療が受けられることを願い、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的として、創設当時から今日まで継続している事業です。創設当時は、高額な小児がんの治療費のほとんどが自己負担でしたが、現在は一部を除き公費負担となっています。しかし、治療期間が長期にわたること、保護者の付添いによる二重生活やきょうだいの保育などさまざまな負担が生じていることに変わりはありません。当事業は、経済的な援助を主軸にスタートし、現在では、闘病中のご家族が病院のソーシャルワーカーやさまざまな社会制度などの資源とつながるための入り口としての役割も果たしています。時代や療養環境の変化に対応するため、2016年度より改定を行い、従来「一般療養助成」と「特別療養助成」の2種類に分かれていたものを一つの「療養援助制度」に改めました。対象者、対象事項等は以下の通りです。

**対象者** 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療中の患児の家族（一疾病で一回限りの援助）で、以下の条件に該当する場合

- 1) 給与所得者：前年の課税所得（源泉徴収票の「給与所得控除後の金額」から、「所得控除後の金額」を引いた額が400万円以下の場合
- 2) 自営業者：前年の確定申告書Bの「課税される所得金額」（専従者がいる場合は「課税される所得金額」に「専従者給与（控除）額の合計額」及び「青色申告特別控除額」を加算した金額）が400万円以下の場合

**援助対象事項** 1) 抗腫瘍治療中で入院療養に必要な対応として①～③のいずれかに該当する場合

- ①以下の治療を要する場合  
移植の実施／難治性（転移もしくは再発がある又は有効な治療法がない）のため治療を要する場合／特殊治療が必要
- ②治療上のやむを得ない理由から治療施設と自宅が片道150km以上離れている遠隔地で治療を要した場合
- ③未就学児のきょうだいがいる場合

2) 抗腫瘍治療中で入院・外来を問わず課税所得100万円（生計を一にする親族に所得がある場合は合算）以下の世帯（生活保護受給世帯を含む）

**援助対象期間** 申請書受理日から遡って3ヶ月間

**援助の決定** 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、援助内容・金額を決定する。

### ■本年度決定実績

	2017年度
決定実績	202件
援助決定総額 (1件当たり平均)	17,803,550円 (88,136円/件)

本事業に対しては、一般財団法人日本メイスン財団、大原小児がん基金、日本労働組合総連合会「愛のキャンパ」、NPO法人酒は未来を救う会、有限会社吉半からの寄付をいただきました。

## 2 相談事業

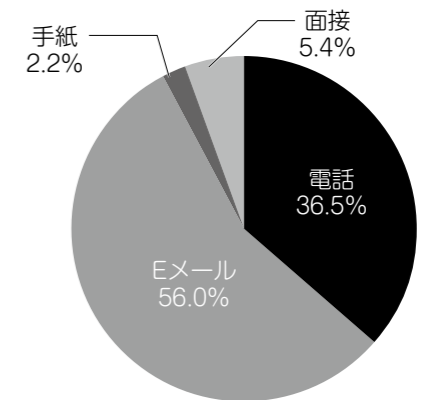
### (1) 小児がん相談事業

小児がん患児・家族は、数ヶ月から年単位の長期にわたる入院生活を強いられることが多く、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。加えて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの強力な治療は子どもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。

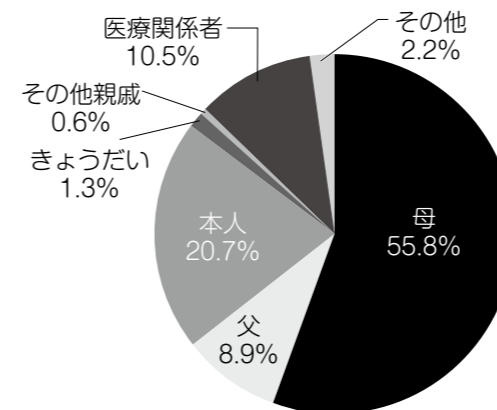
このように多くの不安や悩みを抱える患児・家族に対して、治療中はもちろん、治療を終えた後も、また子どもが亡くなった後も、継続的なサポートが必要とされています。当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーによる相談事業を開始し、以来40年以上相談支援を行っています。2017年度は、東京・大阪両事務所に常駐するソーシャルワーカーが計6名体制で相談に応じました。ご相談内容は療養生活、なかでも亡くされたご家族の悲嘆などグリーフについてのご相談が多くみられました。一方で「体調不良が晩期合併症なのか分からない」「長期フォローアップの施設を探している」「これからの生活が不安」など晩期合併症や就労・自立についてのご相談も多く、治療終了後についてのご相談は全体の40%でした。（詳細は下記をご参照ください）。

### 1. 相談方法

	(単位：件)
電話	946
Eメール	1,452
手紙	56
面接	139
計	2,594

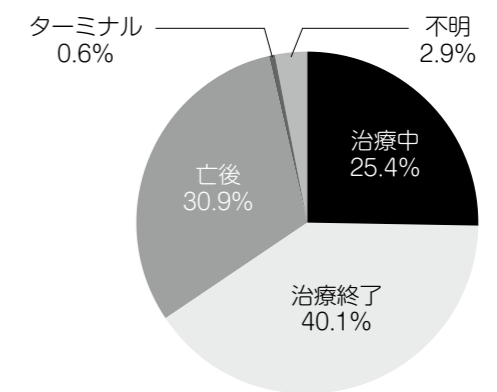


### 2. 相談者属性



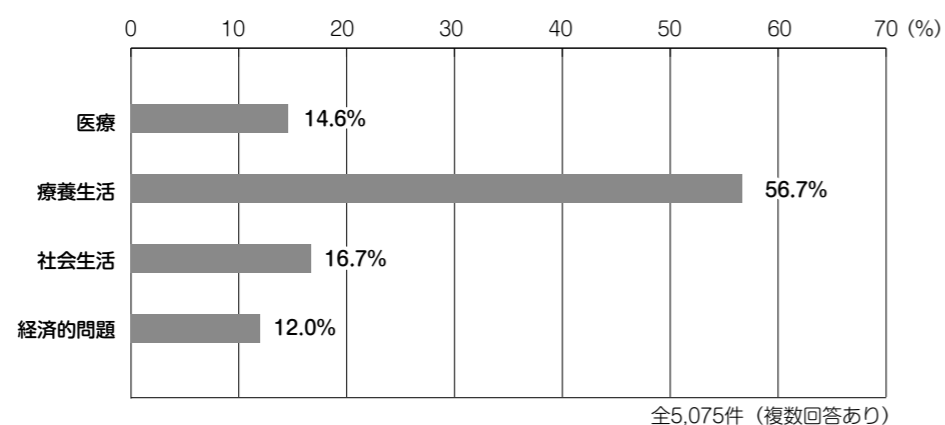
その他内訳：保健所等行政、知人、保育教育関連、他団体等

### 3. 相談時期





#### 4. 相談内容



※上記の各集計分類に含まれる内容は、以下の通りです。

医療：心理社会的、治療、晩期合併症、医療者との関係、セカンドオピニオン等

療養生活：心理社会的、グリーフ、近況、親の会・経験者の会について、家族・きょうだいについて、宿泊等

社会生活：心理社会的、自立、教育、就労、保育等

経済的問題：療養援助事業、社会制度、心理社会的、保険等

#### (2) 小児がん こどもでんわ相談室

2015年8月より、「小児がん こどもでんわ相談室」(フリーダイヤル：0120 - 307 - 164) を開設しました。毎月第1水曜日(祝日の場合は翌週)の16時から19時に、小児がんについての悩みや不安、疑問などに、ソーシャルワーカーと小児科医(奇数月)がお応えしています。「小児がん こども電話相談室」の周知のために、小児がん拠点病院、小児がん診療病院、保健所等にチラシやカードを配置していただいています。

#### (3) 相談会の開催

患児・家族が個別に専門医に相談できる機会として、下記の個別相談会を開催しました。

##### 個別相談会

年月日	内容	相談医	会場
2017年6月11日	脳腫瘍	隈部 俊宏 北里大学病院 脳神経外科	東京(年次大会会場)
6月11日	小児がん全般	松本 公一 国立成育医療研究センター 小児がんセンター	東京(年次大会会場)
9月20日	小児がん全般 (グリーフなど)	細谷 亮太 当会嘱託医/聖路加国際病院 小児科	東京(本部)
10月18日	整形外科	川井 章 国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター	東京(本部)
12月5日	小児がん全般 (患児・きょうだい心の 悩みなど)	小澤 美和 聖路加国際病院 小児科	東京(本部)
2018年2月2日	脳腫瘍	柳澤 隆昭 東京慈恵会医科大学附属病院 脳神経外科	東京(本部)
3月23日	小児科	前田 美穂 日本医科大学病院 小児科	東京(本部)

#### (4) 子どもを亡くした家族の会

##### ①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、ペアレンツハウス浅草橋・亀戸(東京)、ペアレンツハウス大阪にて交流会を年11回開催しました。会は、母親の会、父親の会、家族の会、ひとりっ子を亡くされた親の会、闘病期間の短かったご家族というテーマを設け、各回とも、当会ソーシャルワーカーによる司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。

##### ②短期集中サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しています。

2017年度は、2017年5月18日～6月22日の期間に東京、浅草橋事務所にて開催し、4名が参加しました。グループの開催前に参加者と個別の事前面接を行ったうえで、ソーシャルワーカー同席のもと、毎週1回、原則90分の集まりを計6回持ち、各回とも異なるテーマのもとに話し合いを行いました。グループ終了後には再び参加者と個別に事後面接を行いました。

##### 〈サポートグループの同窓会〉

サポートグループが終了した後は、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び1年後の2回にわたり同窓会と称した集まりをもっています。

2017年度春のグループの半年後の同窓会を、浅草事務所にて2017年12月14日に開催し、4名の方が参加されました。

#### (5) 小児がん経験者への支援活動

##### ①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していく上での悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2003年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。

2017年度は10月21日に、がんの子どもを守る会大阪事務所にて開催し、全国から3グループ4名が参加しました。今年は架空の小児がん経験者の会の交流会を企画・準備をするという設定でロールプレイを行いながら、それぞれの経験や課題を話し合いました。経験者の会の運営や意義を確認する有意義な機会となりました。

##### ②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。2017年度は7団体に計14万円の活動費の支援を行いました。また、小児がん経験者による企画(プロジェクト)に対する助成金として、「シェイクハンズ!～小児がん経験者の集い～」に20万円、「Fellow Tomorrow(フェロー・トゥモロー)／オークの木／WISH 合同交流会」に6万円の支援を行いました。





### ③ Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー) / WISHへの支援

1993年に発足した小児がん経験者の会「Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー)」の2017年6月11日に開催された総会に当会ソーシャルワーカーが参加した他、運営の助言や参加者への支援を行いました。また、2000年に発足した東海地域の小児がん経験者の会「WISH」についても、ソーシャルワーカーが運営の助言や参加者の支援を行いました。

### ④ スマートムンストーンキャンプ

2017年8月25日から27日まで、山梨県北杜市の清里高原にあるキープ自然学校にて、第20回スマートムンストーンキャンプ(SMS)を開催いたしました。

SMSは告知をされて小児がんと向き合ってきた子どもたちを対象にし、1998年に3人の医師、看護師などからなる運営スタッフによって始められたキャンプです。

キャンプ開始から10年以上が経過し、小児がんを取り巻く状況の変化に伴い、キャンプの運営体制も変化してきました。これまでキャンプで築かれた子どもたちのつながりを深くしていきながらも、新しい仲間を迎えられるように、運営スタッフ主体のキャンプから「小児がん経験者が主体となって運営するキャンプ」を目指し、2011年からは企画運営はボランティアを中心に行っています。また、2012年度からは当会の事業として運営しております。

今年は参加者27名、ボランティア15名、キャンプリーダーの稲田浩子先生(佐賀県医療センター好生館小児科)と小児がん経験者のボランティアリーダー5名を含む実行運営グループ10名の計52名で開催されました。なお、本事業は毎日新聞東京社会事業団のご寄付によって運営されています。

協賛：毎日新聞東京社会事業団  
協力：スタイリングライフ・グループ

## (6) 親の会支援

### ① 親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として、1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。

21回目となる2017年度は、5月27日、兵庫県立こども病院血液・腫瘍内科を拠点として活動する親の会「さくらんぼの会」の幹事のもと開催され、全国から21団体30名の参加がありました。当日は、兵庫県立こども病院小児がん医療センター血液腫瘍内科の長谷川大一郎先生から「拠点病院としてのこども病院の役割と陽子線への期待について」、兵庫県病院局参事の副島俊典先生から「小児における粒子線(陽子線) ちりょうについて」と2本立ての講演をいただきました。その後、グループに分かれて親の会の活動や運営について活発な意見交換が行われ、充実した1日となりました。

### ② 活動費の支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は、27団体に計76万円の活動費の支援を行いました。

## (7) きょうだいの支援

### ① 富士山にアタック!! 2017

小児がんの子どものかょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないのが現状です。当会では、2001年より毎日新聞社の支援を受け、小児がん患児のかょうだいのための富士山キャンプを行っています。

17回目となる2017年度は7月29日～7月31日の日程で開催し、小児がんの子どものかょうだい17名、ボランティア9名、他、医師及び当会職員等を含む合計35名が参加しました。初日は、雨天でしたが宿泊先の宿でのレクリエーションを通して親睦を深め、翌日は早朝に宿を出発、富士山5合目より皆一緒に登山を開始しました。また、最終日にはブルーベリー刈りも体験しました。キャンプ中、「きょうだいたちのお話し会」も開催し、同じ思いを分かち合うとともに、お互いを知り理解を深める機会となりました。

協賛：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、毎日新聞東京社会事業団  
協力(物品提供)：株式会社ガイア、日本チャールス・リバー株式会社

### ② きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として、富士山にアタック!!参加者の「富士山だけじゃなくもう少し会いたいね」「旅行じゃなくて気軽に参加できたらいいな」という声から、2011年より小児がんのかょうだいの交流会を開催しています。開催にあたっては、小児がんの子どものかょうだいたちが中心となって企画・運営をし、「てんとうむし」と名付けられました。これはテントウムシ(天道虫)が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、「子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ」という意味を込めています。同じ小児がんの子どものかょうだい同士が、こころにとめている想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感をもてる場として、10月29日の親睦会と3月25日の交流会の計2回を開催し、初参加のかょうだいもあり、充実した時間を過ごしました。

## 3 治療研究事業

### (1) 治療研究助成

子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治癒、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とし、小児がん経験者に関する研究、小児がんに関するトータルケアの研究、小児がんに関する基礎系・臨床系の研究の3課題で募集いたしました。審査の結果、26件(助成総額6,950,000円)を助成いたしました。助成金の一部についてはロート製薬株式会社かろがも基金、ゆめちゃんを救う会からのご寄付も活用させていただきました。



## 〈2017年度 治療研究助成一覧〉

(助成期間：2017年10月1日～2018年9月30日)

氏名(敬称略:順不同)	所属	研究名称
相羽 久輝	金沢大学附属病院 整形外科	骨肉腫由来エクソソームによる骨微小環境への影響
青山 貴洋	愛知県がんセンター中央病院 放射線治療部	常温で変形可能な放射線治療用マスクの開発
家原 知子	京都府立医科大学 小児科学教室	神経芽腫患者における血清中遊離DNAを用いたMYCNがん遺伝子増幅判定法の検討
岡本 正則	信州大学医学部附属病院 整形外科	Wnt阻害因子スクレロスタチンによる骨肉腫治療
上別府圭子	東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻 家族看護分野	入院中の小児がん患者における疲労感と家族機能の関連についての研究
笠原 群生	国立成育医療研究センター 臓器移植センター	進行肝芽腫に対する安全な外科的手術術式に関する研究
菊池 次郎	自治医科大学 分子病態治療研究センター 幹細胞制御研究部	中枢神経浸潤を伴う小児白血病に対するエピジェネティック療法の開発
熊添 基文	国立循環器病研究センター 研究所生化学部 ペプチド創薬研究室	横紋筋肉腫に対する非侵襲的治療法の確立
呉 壮香	日本医科大学 統御機構診断病理学	小児甲状腺癌の発生機序の解明と臨床病理学的検討
小林 良二	札幌北楡病院 小児思春期科	尿中L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)を用いた小児血液がん患者の腎機能評価
小林 英介	国立がん研究センター 中央病院骨軟部腫瘍科/希少がんセンター	小児、AYA世代化学療法抵抗性肉腫の新しい免疫療法の開発
合井久美子	山梨大学医学部附属病院 小児科	小児FGFR1増幅未分化肉腫に対する治療法の検討
佐野 秀樹	福島県立医科大学附属病院 小児腫瘍内科	初回再発ユーイング肉腫ファミリー腫瘍に対するトポテカン+イフォスファミド(TI)療法の第II相試験
嶋田 明	岡山大学病院 小児血液腫瘍科	JACLS長期フォローアップ患者のうち二次がん発症者に関する研究
杉浦 英志	名古屋大学大学院 大学医学研究科 リハビリテーション療法学専攻	小児がん化学療法患者におけるがんリハビリテーションの有効性
杉原 英志	筑波大学 国際産学連携本部 高細精医療イノベーション研究コア	個体モデルを用いた小児悪性リンパ腫の脆弱性の解明と新規治療法開発
孫 略	筑波大学 医学医療系放射線生物学研究室	酸化ストレス応答の視点から考える休止期脳腫瘍細胞の放射線抵抗性メカニズム
田中 祐吉	神奈川県立こども医療センター 臨床研究所・病理診断科	小児腫瘍のグループスタディに有用な病理組織分類アトラスの適時リニューアル
武本 淳吉	九州大学大学院 医学研究院 小児外科学分野	小児悪性骨軟部腫瘍におけるがん精巢抗原の発現解析と治療への応用
高木 治行	兵庫医科大学 放射線医学教室	小児固形がんへのラジオ波治療に適した新しい細径電極針の開発
盛武 浩	宮崎大学 医学部 小児科	二重チロシンキナーゼ阻害薬TAE226の小児悪性固形腫瘍に対する有効性評価
富田 弘之	岐阜大学大学院 医学系研究科 腫瘍病理教室	生体内ゲノム編集による小児びまん性橋本芽腫マウスモデルの創出と非侵襲的バイオマーカーの検証
永井 展裕	東北大学大学院 医学系研究科 細胞治療分野	抗がん剤徐放デバイスによる網膜芽細胞腫治療の試み
原(野上) 愛	就実大学 薬学部 薬効解析学分野	L-アスパラギナーゼ誘発アレルギーの併用薬によるリスク管理
菱ヶ江恵子	日本社会事業大学大学院 社会福祉学研究科(博士後期課程)	小児がん経験者がピアグループへ参加するまでの標準的モデルの構築
福山 朋房	東京大学医学部先端医療研究センター 細胞療法分野/附属病院 血液腫瘍内科	新規分子標的療法の開発に向けたt(8;21)急性骨髄性白血病のメカニズムの解明

## (2) 海外留学助成

小児がん領域における若手オンコロジストの育成並びに当領域における研究のより一層の向上・発展を図ることを目的とし、海外の大学あるいは研究施設に留学し小児がん領域における基礎・臨床の研究を行う臨床研究者に対して奨学助成を行う「Pediatric Oncology Research Fellowship」(PORF 海外留学助成制度)を2001年度から実施しています。

2017年度の助成

選考者より、後日辞退の申し入れがあり該当者はなし。

## 4 総合支援施設運営事業

### (1) アフラックペアレンツハウスの運営事業

アフラックペアレンツハウスは亀戸(東京都江東区亀戸、2001年2月開設)、浅草橋(2004年12月開設)、大阪(大阪府大阪市中央区、2010年1月開設)の3か所にあります。小児がんなど小児難病の患児・家族に寄り添う、日本で最初の総合支援センターとして運営を開始しました。これまで宿泊部門では3棟で延べ131,610名の方にご利用いただいております。

このたび当会の創立50年に合わせ、東京2棟について、大阪と同様に宿泊部門を当会の直接運営とし、近年の小児がんなど難病医療・療養環境における入院期間の短期化・拠点病院の整備などの大きな変化に、また、多様化するニーズに対応しつつ、より居心地の良い施設であり続けるべく、宿泊の受け入れを浅草橋・亀戸の2棟で交互に調整しながら両施設の内装の改修工事を実施しました。

浅草橋は2017年10月にリニューアルオープンを迎え、当会本部事務所1Fに宿泊窓口が移設され、居室にツインデラックスタイプを2室とし、和室を12畳と8畳に拡張し、合計14室を利用者により快適に過ごして頂けるようにしました。また、亀戸はセミナールームの拡張、多目的室を新設し、従来からの患児・家族支援に加え、経験者への支援機能強化並びに小児がんなど難病関連団体を含めて、より幅広い利用者に活用していただけるよう改良拡充しました。居室は3室をツインデラックスタイプに、そのうち1室は車椅子での動きやすさに配慮したゆとりあるスペースをご用意し、和室2室も含め計10室となり、2018年4月(宿泊部門は秋頃)から再開予定となっております。

なお、運営する費用については、アフラック並びにアフラック社員及び全国の代理店(アフラック全国アソシエイツ会)の皆様からのご支援により賄われ、また、その他にも多くの企業・個人の方々からのご寄贈やボランティア、医療関係者によるご支援もいただいております。

### ■宿泊利用状況

延べ宿泊利用家族数(2017年4月1日～2018年3月31日)

亀戸(10室)	／105家族
浅草橋(14室)	／240家族
大阪(12室)	／266家族
計	611家族



▲浅草橋

▲大阪

◀亀戸(ラウンジ)



## (2) その他の宿泊施設

### ①あかつきハウス

1995年にオープンした「あかつきハウス」は、遠隔地から東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設です。区立住宅「築地あかつき住宅」の1戸を特別に借り受け、管理・運営しています。利用料は1部屋2,000円（寝具等の維持管理費）です。2017年4月1日より2018年3月31日までの間、延べ31家族の利用がありました。

### ②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患患児とその家族のための宿泊施設で、2階建ての建物に和室4室があります。三重ファミリールーム運営委員会（三重大学附属病院小児科内）と当会で管理・運営しています。利用料は1泊1,000円、昼間の利用は300円です。2017年4月1日より2018年3月31日までの間、延べ41家族の利用がありました。

## 5 小児がん・難病対策

当会では設立以来、新薬の承認、医療費の公費負担の実現など小児がん患児・家族が抱える制度上の問題点を訴え、発信し続けてきました。当会では会員が国や地方自治体が運営する様々な協議会に患者家族の代表として参画し、政策への意見や提言を活発に述べることができました。

### ■当会が参画している委員会及び各地域のがん対策協議会など

全国	小児がん中央機関アドバイザーボード 小児・AYA世代のがん医療・支援のあり方に関する検討会 がん対策推進協議会
福島	がん対策推進協議会 小児慢性疾患対策協議会
関東	がん対策推進協議会（東京都） 小児がん診療連携協議会（東京都）
新潟	小児慢性疾患対策協議会 がん対策推進協議会
富山	がん対策協議会
福井	がん対策協議会
静岡	慢性疾患児童等地域支援協議会（県、静岡市）
関西	小児がん部会（大阪府）
岡山	がん対策推進協議会
広島	難病対策推進協議会
香川	がん対策推進協議会
愛媛	がん対策推進協議会 がん相談支援推進協議会 慢性疾患児童等地域支援協議会
九州北	がん対策推進協議会（福岡市）
沖縄	がん対策推進協議会 がん診療連携協議会

## 6 支部活動

当会には全国に21の支部があります（2018年3月31日現在）。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

### (1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
4月	福井	ピアサポートカフェ（嶺北地区）
5月	静岡	交流会
	香川	支部総会、講演会
6月	北海道	はるにれの会（子どもを亡くした親の会）
	福島	シンポジウム「小児がんの子どもを教育を考える～高校教育について～」
	福井	のぞみ福井小児がんセミナー
	愛媛	野外BBQ大会
	広島	支部総会・講演会「小児がん患者の親に対する心理教育的支援プログラム～日常の困りごとを解決するスキルを身につける～」
	沖縄	交流会
7月	宮城	3D上映会（交流会）
	福井	ピアサポートカフェ（嶺南地区）
	関西	のぞみトークきんき2017「小児がん患者の晩期障害・長期フォローアップについて」
	香川	院内相談会
	高知	ピアサポートカフェ
	九州北	第46回講演・交流会「小児がん治療の歴史と、これから目指す方向性について」 「私の体験 ～今だから言えること～」
	宮崎	講演会「小児がんの経験を生きる糧に変えて」
8月	新潟	医療講演会
	新潟	支部総会、あおぞらの会（子どもを亡くした親の会）
	岡山	交流会
9月	香川	交流会、四つ葉のクローバー（小児がん経験者）の会
	北海道	病棟訪問人形劇
	福島	個別相談会
	新潟	病棟訪問人形劇
	富山・福井	のぞみ北陸小児がん交流会 in 金沢
	東海	虹の会（子どもを亡くした親の会）
	関西	小児がん経験者の親の交流会
	九州北	第47回講演・交流会「種まく子どもたち・種まく大人たち」
	北海道	はるにれの会（子どもを亡くした親の会）
10月	宮城	いも煮会（交流会）、そらの会（子どもを亡くした親の会）
	関東	病棟訪問人形劇
	岡山・広島・香川・愛媛・高知	第5回中国四国支部合同交流会（高知市）
11月	長野	支部総会
	新潟	あおぞらの会（子どもを亡くした親の会）
1月	福井	ピアサポートカフェ（丹南地区）



開催月	支部	内 容
2月	宮城	研修会
	関西	近畿小児血液・がん研究会公開シンポジウム「小児白血病・がんとエピジェネティクス」 「自分らしく生きていくことを支えるには？～医療者と患者・家族ができることを考える～」
	沖縄	きょうだいの交流会
3月	関東	講演会「小児がん患者の長期フォローアップ」、交流会
	静岡	交流会
	東海	三重大講演会「将来パパやママになるためには！～今知っておきたい治療法」 「小児がん治療のための口腔管理」・相談会、虹の会（子どもを亡くした親の会）
	沖縄	交流会

※ 他、各支部では様々なイベントや啓発活動、募金活動や、定期的な病棟での活動等を実施しました。

## (2) 支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に、2017年6月11日、および11月25日～26日の2回にわたり支部連絡会を開催しました。本年度は、毎年継続的に実施しているピアサポート研修の他、小児がん医療の変遷について陳基明先生（日本大学医学部附属板橋病院 小児科）より「小児血液・がん医療の過去・現在・未来」と題しご講演をいただきました。その後は、支部の運営についての課題などを全体で議論し、その後、6つの個別テーマ（がん教育、グリーフケア、ピアサポート、長期フォローアップ、就労／結婚）について個別にディスカッションを行いました。

### 支部活動の風景



支部連絡会風景

## 7 広報・啓発・募金活動 等

### 第22回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

2017年11月9日（木）～11月11日（土）、ひめぎんホール（愛媛県民文化会館）にて、第59回日本小児血液・がん学会学術集会（会長：石井榮一）、第15回日本小児がん看護学会学術集会（会長：薬師神裕子）、第22回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムが開催されました。

後援：厚生労働省、公益社団法人日本小児科学会、特定非営利活動法人日本小児外科学会、一般社団法人日本小児看護学会、愛媛県、松山市

#### ■三団体合同公開シンポジウム

「思春期・若年成人（AYA 世代）期発症のがん医療環境を考える」

- ・日 時：11月11日（土）9：55～11：50
- ・場 所：第1会場（メインホール）
- ・座 長：堀部 敬三（日本小児血液・がん学会 副理事長）

山下 公輔（公益財団法人がんの子どもを守る会 理事長）

・シンポジスト：

- 「AYA がんの医療環境—2016年全国がん医療機関調査の結果を元に」  
小原 明（東邦大学 医学部 小児科）
  - 「AYA がん・生殖医療の現状」  
高井 泰（埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科）
  - 「AYA がん患者への支援の現状と課題—看護師調査の結果を元に」  
富岡 晶子（東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科）
  - 「思春期・若年性成人がん患者の悩みとニーズ」  
小澤 美和（聖路加国際病院 小児科）
  - 「がん患者の教育の実態—高校と大学の現状について調査結果より」  
新平 鎮博（国立特別支援教育総合研究所）
  - 「AYA がん患者の就労について—新規就労を中心に」  
土屋 雅子（国立がん研究センター がん対策情報センター がんサバイバーシップ支援部）
- ・参加者：約200名

#### ■三団体合同公開ワークショップ

「小児がんおよび AYA がん患者の長期フォローアップの現状と展望—長期フォローアップ体制整備事業の開始を受けて—」

- ・日 時：11月11日（土）13：00～15：00
  - ・場 所：第1会場（メインホール）
  - ・座 長：檜山 英三（日本小児血液・がん学会理事長）  
小田 慈（岡山大学病院 小児科 名誉教授）
  - ・基調講演：塩崎 恭久（衆議院議員、前 厚生労働大臣）
  - ・シンポジスト：
  - 「長期フォローアップに関する問題点」  
石田 也寸志（愛媛県立中央病院 小児医療センター）
  - 「小児がん、AYA 世代がんの長期フォローアップに関する厚生労働省からの委託事業」  
前田 美穂（日本医科大学 小児科）
  - 「小児がん経験者の持つ力を高める長期フォローアップにおける看護師の役割～彼らが主体であるために～」  
竹之内 直子（神奈川県立こども医療センター 小児がん相談支援室）
  - 「入院中の子どもたちの学校教育の現状と課題」  
関 由起子（埼玉大学 教育学部）
  - 「長期フォローアップに求める支援—小児がん患者からのシフトチェンジャー」  
小俣 智子（武蔵野大学 人間科学部 社会福祉学科）
- ・参加者：約220名

#### ■公開講演会

- ・主 催：第59回日本小児血液・がん学会学術集会
- ・共 催：第15回日本小児がん看護学会学術集会  
公益財団法人がんの子どもを守る会
- ・日 時：2017年11月11日（土）15：20～16：20



- ・場 所：第1会場（メインホール）
- ・講 演：「みんな地球に生きるひと～子どもの未来を考える～」アグネス・チャン
- ・参 加 者：約180名

### ■チャリティサイクリングinしまなみ&チャリティゴルフ

- ・日 時：2017年11月12日（日）  
チャリティサイクリング
- ・場 所：道後ゴルフクラブ  
チャリティサイクリング in しまなみ
- ・場 所：しまなみ街道

### ■小児がんの子どもたちの絵画展

当会では、多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、1998年より小児がんの子どもたちが描いた絵を展示し「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催しています。本年度は、全国から寄せられた46作品を展示しました。

- ・期 間：2017年11月9日（木）～11月11日（土）
- ・来 場 者：約600人
- ・特別協賛：一般社団法人ザ・レジェンド・チャリティプロアマトーナメント  
実行委員会
- ・協 賛：キヤノンメディカルシステムズ株式会社（旧 東芝メディカルシステムズ株式会社）



### ブース出展

小児がんの患児・家族への支援を目的にした各種チャリティーイベントや小児がん関連の会合の会場にて、小児がんの現状や当会の活動について周知し、その他募金活動を実施しました。

### ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使われる世界共通のシンボルマークです。ゴールドリボンをあしらったアクセサリーを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。

本年度も多くの企業や有志が集まった方々に様々な工夫を施した広報・募金活動を行っていただきました。

※ 500円以上の募金につき1つ、ゴールドリボンのバッジやストラップをお渡しして小児がんの理解や支援を広めています。本年度は、ピンバッジ3,600個、ストラップ1,425個、スワロフスキー付ピンバッジ325個のご支援をいただきました。（ゴールドリボンの製作費は清水建設株式会社に協賛いただきました）。



ゴールドリボンイラスト



ピンバッジタイプ



ストラップタイプ

### 常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。全国で49か所に設置のご協力をいただいております。



◀ 常設募金箱

支援自動販売機 ▶

### 支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国36か所に設置していただいております。

### 小児がんに関する冊子・資料の発行

より良い療養環境の整備に寄与することを目的として、冊子の発行を行い、患児・家族、小児がん医療に携わる医療者、教育関係者等に配布しました。

### 国際小児がんデーの活動

2月15日は「国際小児がんデー」です。国際小児がんデーは国際小児がんの会（CCI：Childhood Cancer International）により創設され、国際小児がん学会（SIOP：The International Society of Pediatric Oncology）など世界的な主要機関のネットワークにより広がっています。当会では、2月1日～3月31日をキャンペーン期間とし、全国的に小児がんの啓発に努めました。また、今年是小児がんの子どもたちを支援する気持ちを身近な人と分かち合ってもらいたいとの思いで、メッセージカード付きのオリジナルチョコレートを用意して、多くの方にお届けしました。

後援：厚生労働省



### ■啓発チラシ配布及び募金活動

キャンペーン期間中、本部及び支部の主催、または行政機関や医療機関などの協力のもと、啓発チラシの配布や募金活動、小児がんについて考えるイベントなど、全国約60か所以上にて活動を行いました。活動の様子は各地域のメディアでも取り上げられました。





### 〈小児がんに関連する展示〉

公共施設や医療機関、ショッピングモール等の一角を使い、小児がんの子どもたちが描いた絵画のパネルや小児がんの資料展示を行いました。また、小児がんのシンボルであるゴールドリボンで装飾した「ゴールドリボンツリー」の展示も各地域にて行い、小児がんの認知度向上に努めました。

その他、国際小児がんデーキャンペーンの趣旨にご賛同くださった多数の関係機関、企業、個人の方からのご支援をいただきました。



### 〈主な協カイベント〉

- ・神戸フィルハーモニック（コンサート会場にて啓発・募金活動）
- ・大阪エヴェッサ（バスケットボール試合会場にて啓発・募金活動）
- ・世界らん展（ブース出展、啓発・募金活動）
- ・文京区 小児がんの子どもたちの絵画展（絵画展示、啓発・募金活動）
- ・国立成育医療研究センター「小児がん交流フェスタ2018」（ブース出展）
- ・あんさんぶる七のおと Nana-note チャリティー Concert
- ・他多数



### 〈主な協力企業〉

- ・明治安田生命保険相互会社（小児がんの講演会実施、絵画パネル展示、募金活動）
- ・ノバルティスファーマ株式会社（小児がんの講演会実施、絵画パネル展示、募金活動）
- ・日本チャールス・リバー株式会社（啓発・募金活動）
- ・大和市文化創造拠点シリウス／大和市立図書館（講演、絵画パネル展示）
- ・和宗総本山四天王寺（境内にて啓発・募金活動）
- ・他多数

\*その他、全国多数の行政機関、医療機関、商業施設等にご協力をいただきました。

キャンペーンの報告等、詳細はスタッフブログでもご紹介しております。  
<http://blog.canpan.info/nozomi/>



オリジナルチョコレート



塩崎恭久議員とゴールドリボンツリー

## 8 国際活動

### 国際小児がんの会（CCI）への参加と協力

#### ■ CCI (Childhood Cancer International) 年次総会への参加

2017年10月12日～16日に米国ワシントンD.C.にてSIOF（国際小児がん学会）と同時開催された第24回CCI年次総会に、当会理事長及び職員、小児がん患児の親2名、および小児がん経験者2名の計8名が参加しました。小児がん経験者の参加者は公募の上決定いたしました。

なお、2016年度年次総会開催時点にてCCI全体の加盟国は93カ国183団体となりました。

### PHPF (Parents Helping Parents Fund) への協力

発展途上国等のCCI年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に600ユーロの寄付を行いました。

## 9 奨学金事業（アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度）

当事業は小児がん患児に充実した学校生活を送ってほしいとの想いで設立され、2014年度より奨学金の給付を開始しました。2015年度より、がん遺児も対象に加えて奨学金を給付しました。なお、本奨学金制度の内容は下記の通りです。

※ 当事業についてはアフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ会）の数多くの方々からご支援を受け運営しています。

<b>対象者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・18歳未満で小児がんを発症した経験者及び、がんにより主たる生計維持者を失った遺児で、経済的な理由で高校等の進学・修学が困難な方。</li> <li>・給付開始時に高等学校等に在学中の方。</li> <li>・申請時における前年度の世帯収入が当会の定める上限を超えない方。</li> </ul>												
<b>対象となる教育機関</b>	「高等学校」、「中等教育学校の後期課程」、「専修学校の一般過程及び高等課程」、「特別支援学校の高等部」、「高等専門学校」												
<b>給付金額</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月額25,000円</li> <li>・対象となる教育機関で正規の最短修業期間。</li> <li>・奨学金の返還は原則不要。</li> </ul>												
<b>本年度実績</b>	<table border="0"> <tr> <td>小児がん経験者：助成件数</td> <td>46件</td> <td>(高1 11件、高2 13件、高3 21件)</td> </tr> <tr> <td>がん遺児</td> <td>273件</td> <td>(高1 60件、高2 90件、高3 121件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>319件</td> <td>(高1 71件、高2 103件、高3 142件)</td> </tr> <tr> <td>給付金額</td> <td colspan="2">95,425,000円</td> </tr> </table>	小児がん経験者：助成件数	46件	(高1 11件、高2 13件、高3 21件)	がん遺児	273件	(高1 60件、高2 90件、高3 121件)	合計	319件	(高1 71件、高2 103件、高3 142件)	給付金額	95,425,000円	
小児がん経験者：助成件数	46件	(高1 11件、高2 13件、高3 21件)											
がん遺児	273件	(高1 60件、高2 90件、高3 121件)											
合計	319件	(高1 71件、高2 103件、高3 142件)											
給付金額	95,425,000円												



## 10 ボランティアコーディネーター・研修会

### (1) 遊びと学習のボランティア たんぽぽ

「遊びと学習のボランティア たんぽぽ」は、当会ソーシャルワーカーが福祉系大学に通う学生に呼びかけ結成されたボランティアグループであり、1992年より現在まで、東京慈恵会医科大学附属病院 小児病棟にボランティアを週1回派遣し、入院患児を対象に遊びや学習支援活動をおこなっています。

本年度は小児科プレイルームでの遊びの支援が主な活動となりました。また、活動をおこなう上での注意事項、知識や情報交換を目的としたミーティングを6回（隔月）、外部からの講師を招いての研修会を2回（8月、2月）に開催するとともに、活動報告として「たんぽぽ新聞」を3回発行しました。同院のボランティアコーディネーターと積極的な連携を図るとともに、同院ボランティア組織「スマイルボランティア-JIKEI」の調整会議に参加し、より良い関係を築きながら活動をおこなっています。

### (2) ボランティアコーディネーター

当会事業推進のために、本部事務所（東京）と大阪事務所で延べ780名からボランティア協力をいただきました。また事務所外におきましても、キャンプ、病院派遣、イベント、自宅作業、全国の支部活動等で多数の個人、団体の方からご協力をいただきました。

当会にてボランティアとして登録されている方には、ボランティア研修会を実施し、事業内容やボランティアとしての心構えなどへの理解を深めていただきました。

## 11 調査研究協力

### ■調査研究委託

2017年度の当会への調査研究に関連する協力の依頼は5件あり、調査研究委員長の承認が得られた以下の3件について関係者へ協力を呼びかけました。

研究名称	協力内容
平成29年度厚生労働科学研究費 「小児がん拠点病院等の連携による移行期を含めた 小児がん医療提供体制整備に関する研究」  松本 公一（国立成育医療研究センター 小児がんセンター長）	対象者：小児がん経験者 小児がん経験者であることを告知されている20歳～50歳の男女 方 法：5～6人を対象としたフリーディスカッション
「母子健康手帳に関するアンケート調査」  東京都福祉保健局	対象者：都内在住で妊娠中の方、乳幼児～学齢期（高校生）の小児がんのお子さんをお持ちの保護者 方 法：郵送によるアンケート調査
「小児期、AYA期発症がん経験者における、 初めての就職活動時の病気開示意思決定支援に関する研究」  土屋 雅子（国立がん研究センター がん対策情報センター がんサバイバーシップ）	対象者：以下の条件すべてを満たす100名程度 ①調査時20歳以上（年齢上限なし）の男女 ②初めての就職活動を行う以前にがん診断を受けた者 ③初めての就職活動が一般就労（福祉的就労・障害者雇用以外の就労）だった者 ④日本語の読み書きに支障がない者 方 法：インターネットアンケート調査もしくは郵送によるアンケート調査

### ■研究協力

2017年度は下記研究に携わりました。

研究名称	協力内容
「総合的なAYA（Adolescent and Young Adult）世代のがん対策のあり方に関する研究」  堀部 敬三（国立病院機構名古屋医療センター 小児科）	委託研究
「初発の頭蓋内原発胚細胞腫に対する放射線・化学療法第Ⅱ層臨床試験」  松谷 雅生（埼玉医科大学国際医療センター 脳・脊髄腫瘍科）	実行委員会委員

## 12 2017年度年次大会開催

2017年6月11日、飯田橋レインボービル（東京都新宿区）にて「小児がんの高校生の教育」をテーマに年次大会を開催しました。今年度は、全体会に並行し、特別プログラムとして、「ステッカーアート体験しよう」を開催しました。

全体会	分科会
第1部 理事長挨拶 2016年度活動報告および2017年度事業計画概要	1 個別医療相談 2 子どもを亡くした両親のために 3 教育 4 小児がん経験者 5 きょうだい 6 社会活動
第2部 総合司会：近藤 博子（当会副理事長） ・基調講演「小児がんの高校生の教育支援」 新平 鎮博先生（国立特別支援教育総合研究所） ・公開トーク 司 会 平川 浩紹氏（九州北支部 副代表） 登壇者 池田 真実氏 風見 豪氏 寺島 大貴氏	



# 寄付・募金者一覧

(2017年4月1日～2018年3月31日)

## 13 企業・団体からのご協力 (敬称略・順不同)

### 物品寄付

アフラック広報部、FWD 富士生命保険株式会社、アメリカンホーム保険会社、大同生命保険株式会社 (渋谷支社第3営業課)、アフラック秋田県アソシエイツ会、アフラックアソシエイツ会近畿ブロック、アフラック愛知総合アソシエイツ会、アフラック青森県アソシエイツ会、アフラックサービスショップ持田店、アフラック保険サービス株式会社、有限会社フロムジャパン、株式会社保険オフィスさとう、株式会社第一総合企画、バトンズ基金、株式会社 KANSOH、第一生命保険情報システム株式会社事務サービス部、CFJ 合同会社、読売アクト大阪、ライオン株式会社、ジェイアンドエス保険サービス埼玉営業本部青年部、ツーサン株式会社、アフラック東京ブロックアソシエイツ会、一般社団法人ジャパンケネルクラブ大阪ブロック協議会、丸石製菓株式会社、株式会社桜井デザイン、アフラック募集代理店和田邦彦、株式会社裕和、株式会社ガイア

### ご招待

アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社)、認定特定非営利活動法人朴の会、キヤノンメディカルシステムズ株式会社 (旧 東芝メディカルシステムズ株式会社)、毎日新聞社、川島成道音楽事務所、栗山巧 (埼玉西武ライオンズ)、野尻多佳子、パンムジカオーストリア音楽振興会、みつくりピアノ教室

### 募金活動、他ボランティア活動

アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社)、三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社、門田かず子 (ラ・ヴィータアンサンブル)、第一生命保険株式会社大阪市本町事業所、和宗総本山四天王寺、神戸フィルハーモニック、アフラック近畿法人アソシエイツ会、トライム、社会福祉法人成晃会神戸海岸特養ケアセンター、鹿島建設大阪重粒子線施設職長会 GANS、南都銀行新大阪支店、ザ・リッツカールトンホテル大阪、BC ホールディングス株式会社、第一生命保険株式会社関西コンサルティング営業室、ローソン浜寺石津西4丁店、アフラック保険サービス株式会社、スタイリングライフ・グループ、EA ファーマ株式会社、大原薬品工業株式会社、キヤノンメディカルシステムズ株式会社 (旧 東芝メディカルシステムズ株式会社)

～その他、支部においてもたくさんの企業・団体さまからご支援いただきました～

## 寄付者一覧

※敬称略

AGCマイクロガラス株式会社 BAKE SALE CBC株式会社 Harvey Paul A.S. JFE商事株式会社 JFEスチール株式会社 MSD株式会社 NPO法人 酒は未来を救う会 NPO法人 目黒ユネスコ協会 NPO法人 TeamNET Serge de Valk 株式会社 ジェイ・エス・エス Story of the tortoise株式会社 Umiのいえ 相川 勝 愛知製鋼株式会社 相原 大和 青木 嘉仁 青木 千賀 青木 繭子 青柳 亜希 赤崎 恵美子 秋月 麗子 秋本 俊治 秋山 恵子 秋山 由里子 赫多 久美子 浅見 美紀 安島 竜也 安達 歩 熱田 純 アフラックアソシエイツ 営業統括部 アフラック 広報部 アフラック熊本県アソシエイツ会 アフラック道央アソシエイツ会 アフラック 新潟支社 アフラック東日本保険金部第二課 アフラック福岡総合アソシエイツ会 アフラック町田アソシエイツ会 アフラック三重県アソシエイツ会 アボットジャパン株式会社 天瀬 毅 天野 功二 雨宮 孝子 アムンディ・ジャパン株式会社 新井 孝史 荒木 真悟 安藤 なおゆき 飯田 蝶子 飯田 雅史 飯田 芳幸 飯塚 敦夫 五百川 麻子 伊賀 文雅 五十嵐 央 池田 大海 池邊 恵子 石井 隆	石上 久美 石川 孝成 石倉 実希雄 石橋 昶志 石橋 裕史 石橋 裕子 石原 節子 石原 貴泰 石山 ヨシエ 泉 由幸 磯部 直美 板井 順子 板垣 淳司 板垣 薫 板垣 啓司 板垣 紀子 板垣 松平 板垣 茉莉子 板垣 恵 板垣 百合子 市川 瑞穂 一瀬 すみ 一般財団法人 医療情報健康財団 一般財団法人 緑風会 一般社団法人 信託協会 一般社団法人 全国銀行協会 一般社団法人 日本水素推進機構 一般社団法人 A to Z 一般社団法人 サリバン・チャリティ・アワード・フォー・キッズ 一般社団法人 札幌地方自動車整備振興会 白石支部 一般社団法人 生命保険協会 一般社団法人 日本CL建設的な生き方学会 一般社団法人 日本ガス協会 一般社団法人 日本建設業連合会 社会貢献活動協議会 一般社団法人 不動産協会 井藤 有咲 伊藤 尚子 伊藤 由希 伊藤忠商事株式会社 稲田 浩子 稲畑産業株式会社 井野 冬美 井上 俊男 井上 雅美 猪瀬 春生 伊野波 盛郁 伊野波 盛俊 今井 忍 今井 正 今井 千速 井村 律子 伊予市保健センター 医療法人 キンザー前クリニック 医療法人 社団 JINAI 仁愛歯科クリニック 医療法人 つくし かつう小児科医院 岩越 祥晃 岩瀬 孝志	岩田 吉郎 岩谷産業株式会社 岩月 美 ゆうた ウェスプ ペーター 上野 佳子 牛深ライオンズクラブ 内田 恵一 内田 裕之 内田 道治 内野宮 ふよ子 海のそばのカフェ bliss point 梅田 竜嗣 エステック不動産投資顧問株式会社 榎本 武 園 克彦 遠藤 明 オイケ ユウタ 大浦 幸子 大江 登美子 大木 綱雄 大きな木 大久保 一恵 大久保 照子 大久保 俊樹 大蔵 隆彦 大阪重粒子線がん治療施設職長会 大島 泰子 大須賀 ひさ子 太田 為治 太田 浩史 大槻 正明 大坪 哲郎 大場 幸夫 大原小児がん基金 大引 啓次 岡崎 久美子 岡田 伸之助 岡田 玉規 岡村 隆行 岡本 英理子 岡本 武 岡本 光代 岡本 芳浩 小川 昌平 小川 裕輝 沖田 直子 奥野 達也 奥村 陽介 小倉 久美子 尾崎 亜矢子 小澤 綾子 小澤 勝巳 小澤 喜一 落合 章 落合 仁 小野 智久 小野 裕也	おのうえこどもクリニック 小野島 靖芳 尾花 道徳 甲斐 恵 海田 由美子 花王株式会社 香川大学医学部付属病院 笠井 功治 笠井 千晴 風間 美々 梶野 直美 片倉 政人 片山 麻子 片山 桜 勝瀬 求 勝連 しの 加藤 孝 加藤 仁義 加藤 大 加藤 友和 加藤 廣久 加藤 富久子 門田 かず子 カトリックさゆり幼稚園後援会 金沢みなとロータリークラブ 金山 直司 金子 武行 金城 秀人 兼松株式会社 金光 浩一 株式会社 一の宮カントリー倶楽部 株式会社 梅原洋紙店 株式会社 草むしり 株式会社 資生堂 株式会社 俵屋 株式会社 日東 株式会社 悠香 株式会社 吉半 株式会社 Agent 株式会社 BAN style 株式会社 Fortune KK 株式会社 FPライフ 株式会社 Gzブレイン 株式会社 K2インターナショナルジャパン 株式会社 KANSOH 株式会社 MARRON MARRON 株式会社 OKAZAKI 株式会社 アコーセラミック 株式会社 エブリデイ 株式会社 青海社 株式会社 カスタマー・リレーション・マーケティング 株式会社 グローウィング 株式会社 神戸製鋼所 株式会社 コムネット 株式会社 材料屋 株式会社 三平商会 株式会社 高橋組
---	--	---	--





株式会社 デンソー	黒田 悦子	椎名 延年	高瀬 一博	豊田 純子	日本生命保険相互会社 水戸支社	福田 佳子	丸和バイオケミカル株式会社
株式会社 なゆた	黒羽 薫	シェイクハンズ!	高田 圭之	豊田 知美	日本チャールス・リバー株式会社	福谷 歳之	三浦 厚子
株式会社 日幸金属工業所	桑原 浩	塩谷 収子	高田 尊信	豊田通商株式会社	日本労働組合総連合会	福地 誠一郎	三浦 貞夫
株式会社 ニッセン	げんき保育園	塩津 伸司	高野 裕子	内藤 龍平	丹羽 春美	福原 卓也	三川 勝夫
株式会社 日東	合志ライオンズクラブ	塩見 千代子	高橋 晶子	中尾 京子	認定特定非営利活動法人 朴の会	福本 勝司	水江 伸夫
株式会社 日本製鋼所	高木 えり絵	塩村 仁	高橋 和子	中尾 憲治	根本 芳広	フコク生命大阪北支社 第3営業所	水柿 多香子
株式会社 ニヤクコーポレーション	興和株式会社	篠田 章	高橋 建太	長岡市立みしま北保育園 職員	ノーベルファーマ株式会社	フコク生命枚方団体営業所 川上 佳世子	水谷 修紀
株式会社 ビーエル	古賀 友紀	篠田 朱美	高橋 繁雄	長倉 正雄	野口 京子	富国生命保険相互会社	三井造船株式会社
株式会社 東愛知企画	コカ・コーライーストジャパン株式会社	篠原 百合子	高橋 まどか	長崎 志乃	野崎 孝子	フコク生命 淀川中央営業所	三井物産株式会社
株式会社 日立ハイテクノロジーズ	コカ・コーラウエスト株式会社	柴田 和子	高畑 由希子	長崎県県央保健所 原田 あゆみ	野島 尚恵	藤澤 裕子	三菱商事株式会社
株式会社 ファンコミュニケーションズ	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社	柴田 祐輔	高原 康一	長崎県五島保健所	ノバルティス ファーマ株式会社	藤田 昶子	三菱電機株式会社
株式会社 不二家商事	古賀印刷株式会社	渋江 美恵子	高松 英夫	中澤 和男	芳賀 優子	富士電機株式会社	緑川 寿江
株式会社 プラスワン	心屋オープンカウセリング 平賀 美和子	渋谷 幸枝	宝田 知子	中澤 幸子	萩本 佳子	藤野 香織	眞作 温子
株式会社 フレーズ	こざくら幼稚園	島田 健司	竹内 秀明	中澤 治美	萩原 明子	藤平 一雄	宮城 智央
株式会社 フレックスファミリー 代表取締役 石原 賢太郎	小嶋 英雄	清水 信	武川 智子	仲島 小百合	橋口 正子	藤村 正	宮城県民共済生活協同組合
株式会社 ホリスター	小島 昌子	清水 真弓	竹下 創	中島 拓也	橋都 浩平	藤本 敏彦	三宅 隆則
株式会社 松村エンジニアリング	コスミック流通産業株式会社	清水建設株式会社	竹下 直美	中島 久子	橋爪 直美	藤山 優子	宮坂 重毅
株式会社 ユメテラス	後藤 雅	下林 正大	竹薫 博一	長瀬産業株式会社	馬上 星一	藤原建装株式会社	宮崎県高鍋保健所
株式会社 淀川製鋼所	後藤 史子	社団法人 ジャパンケネルクラブ 大阪ブロック協議会	竹並 俊雄	中田 誠一郎	馬上 豊	舟木 幸子	宮崎県日向保健所
株式会社 ワークス	小西 洋子	庄司 みつ子	竹野内 正宏	中田 政和	長谷川 伸布子	フリースクールオンリーワン	宮澤 敦子
株式会社 ワールドアイコーポレーション	小林 幸嗣	白井 了太	田尻 健	長瀧 明子	服部 とみ子	古田 優子	宮下 仁志
株式会社 ワールドファミリー	小林 宗一	白石 侑大	田添 俊昭	中西 美穂	濱 克彦	古本 恵子	宮田 圭
嘉麻市役所 嘉穂総合支所	小林 由佳	白井松新薬株式会社	田中 雄	長野 正恵	濱田 諭奈	古元 啓	宮の台幼稚園バザー委員会
亀井 美智	小林 幸正	新谷 洋子	田中 和夫	中野 雅美	濱田 奈穂	普連土学園 宗教委員会	宮本 洋子
亀本 綾子	小松 嵩弘	新谷 葵	田中 京子	中野 洋子	浜谷 秀孝	平野 敦子	牟田 謙一
軽部 裕美子	小宮 毅	進藤 健	田中 達男	中村 和子	濱畑 郁子	平野 秀治	六藤 喜夫
川口 弘二	小宮山 めぐみ	新日鐵住金株式会社	田中 ふさみ	中村 和彦	浜本 由紀子	別所 文雄	棟方 理史
川口 剛信	小森谷 祐美子	吹田 健吾	田邊 唯美子	中村 良樹	ハニーダ・ラーマン、ジャラル・ラーマン	ベルテック トレーディング株式会社	村上 洋子
川添 直幹	コリ 都三女	水代 富雄	谷 和也	中村 美子	葉 美穂	朴木 寛弥	村林 明子
川藤 等	近藤 千絵	杉立 匡規	谷口 真理子	仲本 千佳子	早川 晶	細井 廣一	村松 毅
川村 哲也	財津 克典	杉原 和子	谷村 秀樹	南雲 晃	早川 秀夫	細田 裕美	室谷 哲哉
木佐貫 明子	斉藤 孝	杉本 修一	田畑 しおり	南雲 貴央	早川 英子	細谷 名津子	明治安田生命保険相互会社 営業人事部
岸田 恭二	齋藤 七海	杉本 束	玉井 利夫	成田 幸子	林 佳奈子	堀田 登志子	目黒 正彦
岸野 直樹	西塔 真由美	杉本 洋一	玉井 宏明	成田 隆澄	林 顕次	ほのぼのサロン	茂木 喜嗣
岸本 新平	早乙女 泰子	鈴木 亜津子	玉川 京子	成田 真由美	林 修治	堀 ひろみ	木曜会 (久留米大学病院小児科血液グループ親の会)
北原 義明	酒井 あゆみ	鈴木 きょうこ	中外製薬株式会社	名和 久子	林 志郎	堀 由紀子	元田 雅弘
北村 眞法	坂井 恵子	鈴木 千穂	中外製薬労働組合 ぼけっと基金	難病対策センターひろしま	林 千明	堀川 哲男	本山 寛
北村 基郎	酒井 信夫	鈴木 淑恵	張 光陽	南部 昌弘	林 富	堀口 悦子	森 賢治
キッコーマン株式会社	榭原 悠児	鈴木 久夫	長江 義子	二井 立恵	林 雅彦	本田 陽二	盛合 麻紀子
木戸 千紗子	榭原 義夫	鈴木 三知子	蝶理株式会社	新潟県信用農業協同組合連合会	速水 節子	毎日新聞 東京社会事業団	もりの木こどもクリニック
城戸 良介	阪口 義禎	須々木 由美子	塚田 薫代	新潟包材株式会社	原野 恵里香	前田 味希	守山内科・小児科
木野 友義	坂田 年	鈴木 美文	塚原 一雄	針生 昌弘	針生 清高	前田 紫帆	モルガンスタンレー
木下 成顕	サカタ マコミ	スタイリングライフ・グループ	築地7丁目町会婦人部	西岡 裕美	伴 和香子	前田 美穂	矢崎 直美
きもべつ喜らめきの郷	坂詰 松美	須藤 佐知子	つくしの会	西川 澄子	阪和興業株式会社	前道 裕子	安田 かおり
九州大学病院	酒徳 浩之	住友商事株式会社	辻林 温子	西田 知佳子	日尾 泰平	眞尾 貴年	柳澤 隆昭
九大病院 親の会すまいる	坂水 愛	住友生命保険相互会社 長岡シティ支部	津田 留美	西出 稔	東 俊江	横 富貴子	築瀬 彩
京都府中丹西保健所	阪本 哲男	西部 雅	土田 恭平	西野 由佳	東 裕也	正代 優子	矢野 聡
教龍寺 住職 藤本 龍美	阪本 真理子	聖路加国際病院 ボランティアグループ	妻鳥 毅史	西村 浩志	東山内科・小児科	増田 勝治	山内 順子
楠井 晶	櫻井 祐記	関 真幸	手納 朋子	西山 直孝	樋口 明子	又川 日美子	山内 正成
久原 ひとみ	桜田 みゆき	関戸 健嗣	寺田 翠	仁田原 浩明	日下田 健児	町田 淳	山雄 美智代
久保 恵美子	篠井 智恵子	千賀 伸一	東京葛飾東ライオンズクラブ	日新製鋼株式会社	火ノ川 好信	松井 秀文	八巻 恭治
久保 恭子	笹川 泰弘	セントバルトリクスファウンデーション	東京中央南ライオンズクラブ	日鉄住金物産株式会社	平 哲也	松川 景	山口 勝一
久保 みさと	佐々木 大輔	双日株式会社	東京マリオットホテル	二宮 和也	平井 五郎	松川 泰士	山口 利子
久保木 裕子	佐藤 貴虎	東芝保険サービス株式会社	東芝保険サービス株式会社	二宮 美保	平井 俊子	松阪 直美	山崎 文之
久保田 一男	佐藤 公則	堂本 了史	堂本 了史	日本医科大学千葉北総病院	平井 博夫	松下 さよ子	山下 公輔
窪田 貢	佐藤 浩樹	東洋英和女学院 小学部母の会	東洋英和女学院 小学部母の会	日本製紙連合会	平岩 聖裕	松嶋 史絵	山住 慶子
窪田 幸恵	佐藤 浩	第一生命保険株式会社 老舗営業オフィス	第一生命保険株式会社 大阪コールセンター	日本生命保険相互会社 梅沢 美香	平澤 和美	松田 信夫	山田 勝三
熊谷 則一	佐藤 雅敏	第一生命労働組合	第一生命労働組合	日本生命保険相互会社 岡山支社	平田 文代	松永 憲一郎	山田 重子
隈崎 哲也	佐藤 稔	だいき動物病院 高橋	だいき動物病院 高橋	日本生命保険相互会社 埼玉東支社	平山 忠之	松村 伸子	山田 豊
熊崎 裕文	讃岐 美甫	大善家具株式会社	大善家具株式会社	日本生命保険相互会社 那珂湊営業部	廣中 淳司	松本 敬子	山室 達夫
熊本歯科衛生士専門学校	佐野 ゆかり	大同特殊鋼株式会社	大同特殊鋼株式会社	日本生命保険相互会社 函館支社	ファイザー株式会社	松本 隆	山本 暁彦
クリニークアンジェ 牧山内科	佐用 敏彦	大理石村・ロックハート城	大理石村・ロックハート城	日本生命保険相互会社 橋本 順子	ファミリー・ラーマン	松本 千賀子	山本 敦則
クリアゴルフフィールド	澤田 敦子	多賀 哲男	多賀 哲男	日本生命保険相互会社 日立営業部	深谷 恭子	松本 基	山本 敬
黒木 智	沢田 祐子	高澤 仁司	高澤 仁司	日本生命保険相互会社 弘前営業部	福井イーストライオンズクラブ 会長 尾崎 喜代博	真鍋 美薫	山本 公司
黒坂 敬弘	澤邊 めぐみ	高下 雅巳	高下 雅巳	日本生命保険相互会社 水戸営業部	福田 博	丸紅株式会社	山本 章子

山本 勝利 山本 秀樹 山本 道明 山陸 康博 有限会社 築地にしん太助 有限会社 長島産業 有限会社 松田興業 有限会社 アトリエ・デ・くつきいず 有限会社 エイシン工芸 有限会社 大瀧設備事務所 有限会社 キャピタル	有限会社 トム 有限会社 フットフィール 有限会社 山川土地建物 有限会社 ライフクロカワ 有限責任事業組合 ファイル*カ研究所 豊ファミリー株式会社 横瀬 兼二 横浜冷凍株式会社 横堀 隆 横幕 嘉久 横山 貞代	吉井 智美 吉川 隆 吉田 邦子 吉田 ゆり恵 吉沼 幸一 吉野 智子 吉野 さなえ 吉本 哲也 吉本 泰隆 米倉 邦子 米原 チドリ	米山 望 ライオンズクラブ国際協会332-Eガバナー 伴 和香子 ライオンズクラブ国際協会334-D地区 5R-2Z 李 オル 李 清 若杉 和枝 若松 梨沙 ワタキューセイモア株式会社 渡辺 恵子 渡部 眞澄
--	---	---	--

上記の他、アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）、アフラック販売代理店及び社員の皆様には、キッズサポートを通じてペアレンツハウス、ならびに小児がん経験者・がん遺児奨学金制度の運営をはじめとした当会の活動に数多くのご寄付（1,581件）をいただきました。

匿名ご希望の方からも多数ご寄付をいただいております。

## 募金者一覧

※敬称略

A.FAMILY株式会社 CLUB66 代表 斉藤 和巳 Joe Fox NPO法人 M.A-ART BALLET COMPANY NPP OOD 事務局 Shop ART sora hair design Umi のいえ アフラック 見学会 アフラック群馬県アソシエイツ会 アフラックサービスイオン香椎浜店 アフラックサービスショップイオン大塚店 アフラックサービスショップイオン穂波店 アフラック 調布支社 アフラック保険サービス株式会社 有水小学校児童会 一般社団法人サレジェンドチャリティプロアマネット新発会	医療法人三幸会 小澤診療所 おばんざい処 嘉づき 片岡 裕美 株式会社 Fortune KK 株式会社 K2 インターナショナルジャパン がん患者支援チャリティーセミナー&コンサート 関西学院高等部吹奏楽部 吉祥寺 ひまり屋 公益財団法人 がんの子どもを守る会を応援する会 神戸フィルハーモニック こどもフェスタ in とうかつ 子どもを亡くしたおやじの会 小林花卉 サービスノースインターナショナルジャパン合同会社 佐藤 貴虎（佐藤ゼミ） 社会福祉法人 成見会 神戸海岸特養ケアセンター セ シュエット	聖路加小児医療センター 聖路加メサイア ソフトバンク株式会社 第10回 酒は未来を救う〜今、私たちに出来ること〜 第一生命労働組合 大阪東営業支部 大理石村・ロックハート城 富山福祉短期大学 トライム 中嶋 勝彦 日蓮宗 妙像寺 日本生命保険相互会社 日本労働組合総連合会 ノーバルファーマ株式会社 ノバルティスファーマ株式会社 オンコロジー事業部有誌 ノバルティスファーマ株式会社 バラエティーショップ舞桜 福井県済生会病院 よろず相談外来	募金 フィンランドのお話と音楽を聴く会 募金「三響會金沢特別公演」会場 明治安田生命保険相互会社 労働組合 ヤフー株式会社 有限会社 築地にしん太助 有限会社 酒ハウス ヤマヤ 有限会社 ミートステーション ライフテックノロジーズジャパン株式会社 李 清 レスリーチャンバースデー募金 レモネードスタンド in ぶくおか実行委員会 ローソン浜寺石津西4丁目店 渡邊 健太郎 渡邊 直美
--	--	---	---

他、多くの方からご支援をいただきました。ありがとうございました。

※当会では寄付金について以下の通り取り扱っております。

- 寄付：特定の個人や法人から集まった募金
- 募金：不特定多数の方からの支援金（募金箱やイベント会場など）

## 公益財団法人がんの子どもを守る会2017年度事業報告書

2017年4月1日～2018年3月31日

2018年6月4日 発行

公益財団法人がんの子どもを守る会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12  
TEL03-5825-6311(代表)